

図31 市の渡ダム被害状況

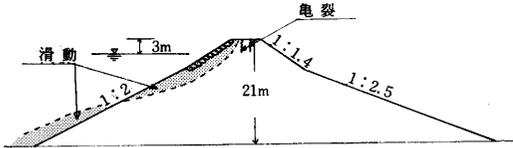
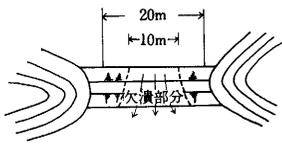


図32 田ノ沢ダム被害状況

にあったがためダムは恐らく数十種の変位をしたものと推定される。それゆえ地震時には堤体の各部に非常に大きな地震力が作用したであろう。

また、これらのダムは一般に法こう配が急であるように思われる。上下流面共ほとんど1:1.5~2程度しかない模様である。この事もダムの被害を大きくした原因の一つであろう。

秋田県八郎潟干拓堤防は本地震によってかなりの被害を受けた。八郎潟東南部においては、

- 1) 正面堤防では延長338mにわたり堤頂が最大1.0~1.9m沈下した。
- 2) 東部干拓第5区堤防では延長1088mにわたり、堤

表14 森県内における主な農業用ダムの被害

ダム名称	高さ	被害内容
冷水ダム	7.5m	下流法面で斜面内破壊、堤頂ダム軸方向に幅5cmの亀裂
小金沢ダム	20m	堤頂および上流斜面にダム軸方向に平行にそれぞれ幅7cm、3cmの亀裂長さ15m
田ノ沢ダム	21m	堤体中央部で堤頂が約1m沈下、天端付近より上流斜面滑動、堤頂にダム軸に平行に約100m幅10cmの亀裂
根井沼	5m	上流側斜面滑動、左岸30m区間上流および下流に滑動
小田内沼	7m	全長にわたり上流斜面滑動、中央部下流斜面滑動
市の渡ダム	4m	全長20mの内中央部10mは欠壊
早掛沼	12m	堤体の大部分が流失、両岸袖部と中央部が僅かに残る、左岸斜錘吊りになっている。
一里小屋ダム	10m	堤長110mの内40mが流失、上流面滑動60m
二枚橋ダム	10m	堤体は一般に沈下し、全長160mの内左岸部80m位で堤頂中心に段状亀裂し上流面滑動
笠井ダム	5m	堤頂の下流側半分が長さ80mにわたり滑動
山部沢ダム	5m	上流斜面滑動80m
葛西ダム	6m	堤頂の下流側法肩付近にダム軸に平行に全長にわたり亀裂一部滑動
上流ダム	4~5m	完全欠壊
蒲野沢ダム	12m	堤長約80mの内中央部50m位に堤頂に亀裂、上流側に10~15cm沈下
横浜ダム	4~5m	堤頂約90mの内40m欠壊、残留部分も上下流にそれぞれ滑動
横浜ダム	12m	全体に沈下、上流側石張に亀裂、斜錘折損

頂が最大1.3m沈下した。

同干拓堤防は昭和39年5月7日青森県西方海底に起こった地震によって、西北部の堤防がかなりの延長にわたって沈下などの被害を受けている。

しかしながら被害箇所が両地震ではなほだしく異なっているのは興味ある事実であり、今後の調査結果がまたれるのである。

表13には青森県下における農業用施設の被害が示してある。  
(1968年10月24日受理)

正 誤 表 (11月号)

ページ	段	行	種別	正	誤
19			図 12	(F1) Fluidizing Bed	(FL) Fluidizing Bed
20	左	7	本文	M型とA型を示して	M型とV型を示して
24			写真 10	③写真①の電子顕微鏡	③写真①電子顕微鏡
25			図 3	⑦(Cu <sup>+</sup> )/Cu <sub>2</sub> O	⑦(Cu <sup>+</sup> )/Cu <sub>2</sub> O
26	右	下6	本文	行った場合	行なった場合